

平成 30 年 7 月 2 日

※会場がいつもと異なりますのでご注意ください。

国道 208 号線（南部バイパス）からキャンパスへのご入構後、すぐに進行方向左手の道路拡幅スペースに関係者が「軟弱地盤研究会」の看板を携えて立っています。「軟弱地盤研究会」へのご参加のことをお告げいただき、入構券と駐車許可証（紫色のカード）をお受け取りいただき、ご入構ください。

■本庄キャンパス | キャンパスマップ | 国立大学法人佐賀大学

<http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/campusmap/>

■会 場：マップ中 29 番の建物です。

■駐車場：29 番建物周辺の駐車場をご利用ください。

■備 考：上記の入構券と駐車許可証（紫色のカード）の受渡方法について、引換証は準備しませんので、関係者以外への口外無用に願います。

各 位

軟弱地盤研究会（第 144 回）のご案内

軟弱地盤研究会
会長 日野剛徳

日 時：平成 30 年 7 月 18 日（水）14 時～16 時

場 所：佐賀大学本庄キャンパス 理工学部 6 号館 DC 棟 2 階多目的セミナー室
（佐賀市本庄町 1 電話 0952-28-8612（日野研究室））

話 題：軟弱地盤上に建設された海上空港の沈下予測と対策技術

講演者：北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 教授 渡部 要一 氏

概 要：講師から下記の概要をいただきました。

我が国を代表する海上埋立空港である東京国際空港（羽田空港）と関西国際空港を例として、これらのプロジェクトで乗り越えなければならなかった困難を取り上げ、そこから得られた教訓について予測技術や対策技術の視点から取りまとめる。関西国際空港では、大規模な埋立て事業であるが故に、従来の埋立て工事では沈下の検討対象とならなかつた更新統の粘土層（いわゆる洪積層）に起因した圧密沈下に着目し、圧密沈下の予測技術に焦点を当てる。また、東京国際空港（羽田空港）では、超軟弱なヘドロを空港施設に変身させた沖合展開事業（C 滑走路）や最新の技術を随所に適用した再拡張事業（D 滑走路）において検討された不同沈下の予測技術や抑止対策に焦点を当てる。

※参加希望の方は必ず事前にメールまたは FAX でご連絡ください。当日の申込みはできるだけご遠慮下さい。

※参加費：当研究会の個人会員および特別会員は参加費無料。それ以外の方は資料代（¥1,000）が必要です。

※参加証明書は研究会終了後に受付にて必要な方に配布します。

=====

軟弱地盤研究会事務局

担当：喜連川 聰容（Kirekawa Toshihiro）

E-mail: asgt@sagacat.or.jp

URL: <https://www.sagacat.or.jp/asgt/index.html>

Tel:0952-26-1668/Fax:0952-26-1669

〒840-0857 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町 3182 （公財）佐賀県建設技術支援機構内

=====